

戦中の思い出

長久手市前熊下田 與語麦生さん

昭和16年12月8日、小生が長久手国民学校初等科2年生のとき、太平洋戦争が始まった。その頃は、あまり身近に戦争の怖さが分からなかった。小学校4、5年生の頃、村の小学校の校舎に兵隊さんが常駐する様になり、将校さんたちが乗る馬の飼料にするため、草刈りを手伝った記憶がある。また、男子児童は、2本の青竹を使って桑の木の皮を剥ぎ、それを竹竿に干してから学校に行ったものだ。桑の木の皮は、長いもので数メートルもあった。乾燥させて加工すると丈夫な繊維になるので、兵隊さんの軍服にするとか聞いていた。

食糧を確保するために、小学校の校庭を掘り返して芋畑にしたり、色金山の北法面を開墾して、さつま芋を作ったりした。大草の権道寺の山から防空壕の材料になる松の木も切ったりした。当時は未舗装で埃を上げて何本も学校に運んだ。小学校の校庭に防空壕を作ることが優先され、とにかく学業はそっこのけだった。しかし、大勢で仕事するのは楽しかった。

小学校高学年になると三ヶ峯の県有林で野うさぎ狩りをした。山の麓に長い網を張り、大勢で一列になって、大声で山の裾から谷間に向かって追い出していき、一度に5、6匹は捕ることができた。捕獲したうさぎを学校に持ち帰り、皆でうさぎ汁を作った。もっとも、我々児童のうさぎ汁には、汁だけで肉は入っていなかった記憶がある。また、登校前には、地元の神社に兵隊さんの武運長久を願って軍歌を唄い、男女ともに日参した事も思い出す。

戦時中、我が長久手村においても、大勢の兵隊さんたちが野戦訓練のために村内の民家に寄宿した。長湫のある地主さん宅に将校級の兵隊さんが泊まり、軍馬が繋がれたクロガネモチの木、通称フクラシバの大木をかじった傷跡が戦後70年たった今でも現存している。

終戦間近の昭和20年3月末、名古屋市営地下鉄車庫、現在の丸山住宅付近にB29爆撃機が墜落したと聞いたので、自転車で見に行った。爆撃機の車輪の大きさに驚いた。爆弾を積んだまま、高射砲で撃たれ落ちたようであった。

終戦直後には、中根原の田んぼに2か所、琵琶ヶ池に1か所、B29爆撃機の爆弾が落とされた。当時の大人たちの話では、米軍が帰り際に機体を軽くす

るため、何もないところに爆弾を落としたのではないかとのことだった。

小生が国民学校初等科6年生のときに終戦を迎えた。ところが、学生時代に思い出づくりに欠かせない修学旅行が、終戦のごたごたで中止になってしまい、
齢80余年過ぎた今でも残念でならない。戦争は、二度と繰り返さないことを願う。